

平成22年 9月 2日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る調査状況について

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力28万kW）は、現在、燃料交換作業の後片付け作業中ですが、8月26日、原子炉建物において炉内中継装置^{*1}を取り外す作業中に、原子炉容器内より約2m位吊り上げた時点から落下し、その後の調査により、原子炉機器輸送ケーシング（AHM^{*2}）吊り上げ装置グリッパの爪^{*3}を開閉する「爪開閉ロッド」が、正しい状態から約90度回転していることを確認しました。 【8月26日、8月29日お知らせ済み】

【炉内中継装置の点検】

8月30日、燃料出入孔の接続筒の上面に原子炉内の観察のためのフランジ（点検窓）を取り付け、炉内中継装置の頂部を観察しました。また、31日から1日にかけて、観測機器（ファイバースコープ等）を用いて観察した結果、すり傷が認められましたが、欠け・変形等の異常はありませんでした。また、点検窓から炉内中継装置の上部フランジ面までの距離をレーザーで計測するとともに、本日、回転ラック駆動装置の駆動軸が炉内中継装置に正常に挿入され、結合されたことから、炉内中継装置が正規の位置に保持されていることを確認しました。

【AHMの吊り上げ装置グリッパ部の点検】

8月31日、AHM本体を原子炉上部から取り外し、メンテナンス・廃棄物処理建物へ搬送を行い、9月1日、内部のガス置換を実施しました。

本日より、グリッパ部等を目視により確認を行う予定です。

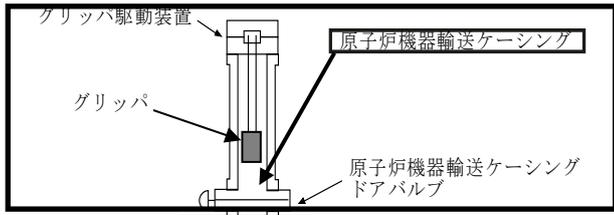
今後、AHM吊り上げ装置グリッパ部などの詳細な調査等を実施するとともに、原因調査を継続して行ってまいります。

*1：燃料交換時に炉心と燃料出入設備との間で炉心構成要素を移送する燃料交換設備の構成機器の一つ。

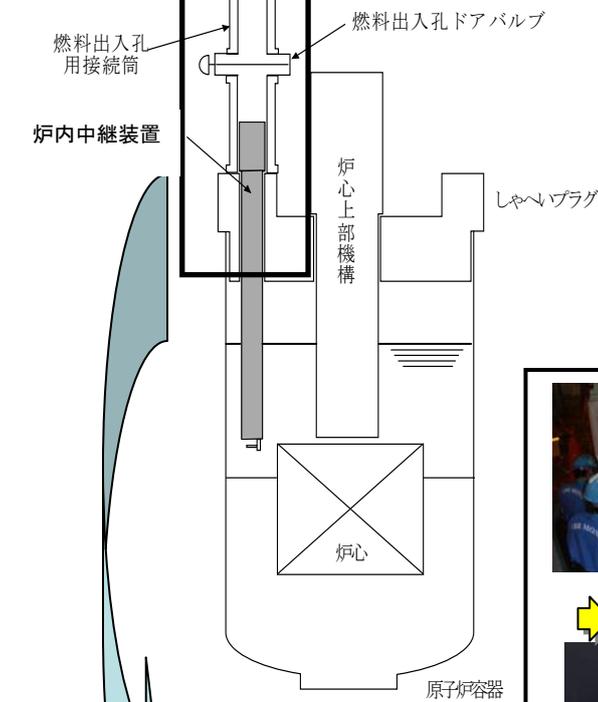
*2：AHM (Auxiliary Handling Machine)

*3：グリッパに取り付けてある、炉内中継装置を掴むための爪のこと。

以上



メンテナンス・廃棄物処理建物へ移送済み(8/31)



点検窓

ドアバルブのレール

ファイバースコープの方向

点検窓からの観察写真

テーパ部

グリッパ爪位置

すり傷

すり傷

炉内中継装置頂部の観察状況

